

<先週の出来事>

村上定幸

【覚えてますか】去年の暮、カリフォルニアから一時帰国されたY姉が、お嬢さんと熱心に教会に集っておられたのを覚えてますか。突然 25 日の夕方に電話を頂き、御主人が、すごく突然に召されたとのことでした。清水で行ったことのある教会といえば草薙教会だけとのことで、御主人の家まで行って、祈りを捧げてほしいとのことでした。“教会の祈りでもかまわないでしょうか”と、未信者のご家族に申し上げ、亡骸の前で祈りをしました。

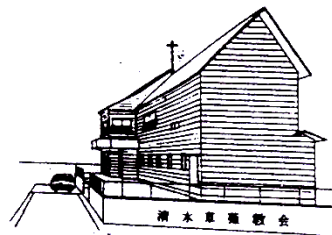
【納管式】亡骸はその日のうちに、清水にある姉妹の実家に、移ることになりましたが、役員とも相談し、教会で、信仰者の葬儀としてさせて頂くことになりました。納管式では、“教会という場所”について聖書から神の言葉を頂きました。神社詣でに始まり、ホテルのキリスト教のような結婚式、そして最後は仏教で、葬られることを選ぶのが多いようですが、結局、何をも救いの力と信じているわけではないのです。しかし教会は、その全てを同じ場所で行います。結婚式の直後に突然、葬儀の場所にだっとなるわけです。私たちもひたすらこの場所で、主に委ね、恵みと力とを与えられる人生を送りたいものです。

【前夜式】28 日という日は、先に、息子さんを天に送られた日と同じです。聖書は、黙示録 7 章が開かれました。“あらゆる国民、種族、民族、言葉(7:9)”が声を揃えてとありますが、そいじゃ、どんな言葉を使ったのでしょうか。日本語でも英語でもなさそうです。バベルの塔以来、人々は違う言葉や考えを持つ人の群れとなりましたが、このことは違う文化や経験を享受し、豊かさをもたらすことになった半面、私たちが経験するように、同じ日本語を使いながら、通じない、理解できないという不幸にもなったのです。豊かさを得るために、通訳などという仕事が意味を持つようになり、沢山の大学で“異文化交流”ということが学問の対象にもなっています。主の導かれる御国は、人と人との心が通わない(讚美歌Ⅱ-80)ことのない世界、そこに私たちは福音=復活の力によって導かれるのです。

【告別式の説教】告別式では、ローマ書8:18~27が開かれました。私たちは、“罪の行きつく所は死である”ということをよく知っています。そして“ただ一人罪を犯されなかった主”を知っています。しかし、争いやいさかい、偶像礼拝は、この世の中に深く入り込み、全ての人の心をむしばみ、世の中全体を犯すまでになっているのもまた事実なのです。“これが悪だ”ということを知っているにもかかわらず、どうしようもできずにうめくのです。造られた者すべてが、個人の力よりも強く、政治や社会の力でもどうしようもない、罪を犯し続け、犯した罪に悩まされている世の中に住んでいます。先進国と呼ばれている国々は、その営み自体が悪をもたらしていることを知っています。人の生活には、心と体における貧富があり、貧しさを覚え、恐れます。これはよくないことですが、人にも国にもこれをなくすことのできない世界に住んでいることを、呻くように耐えています。御国が来ますようにと、主に頼ってそうするのです。

週報

2011年 7月 3日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042